

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-314023

(P2000-314023A)

(43) 公開日 平成12年11月14日 (2000.11.14)

(51) Int.Cl.⁷

A 41 D 27/18
1/02
13/00

識別記号

F I

A 41 D 27/18
1/02
13/00

テ-マコ-ト^{*} (参考)

D 3 B 0 1 1
Z 3 B 0 3 1
Z 3 B 0 3 5

審査請求 有 請求項の数 6 O.L (全 9 頁)

(21) 出願番号

特願平11-124907

(22) 出願日

平成11年4月30日 (1999.4.30)

(71) 出願人 398046149

株式会社むさし家

名古屋市千種区山添町一丁目4番地の4

(72) 発明者 横山 高司

愛知県名古屋市千種区山添町一丁目4番地
の4 株式会社むさし家内

(74) 代理人 100095751

弁理士 菅原 正倫

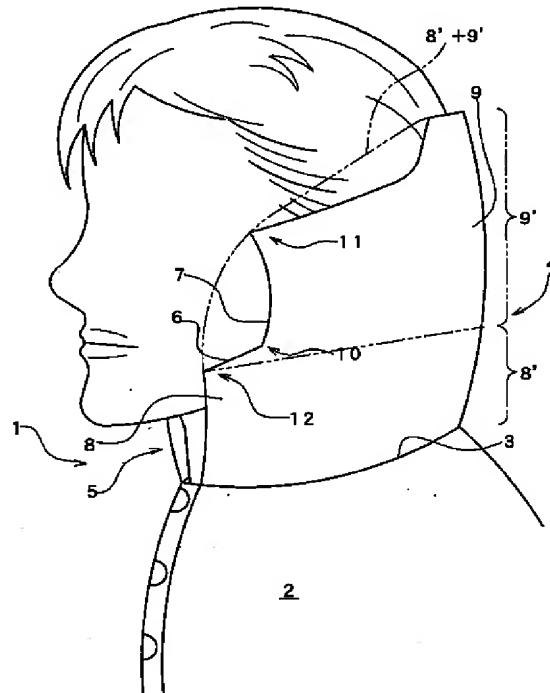
F ターム (参考) 3B011 AA01 AB11 AC16 AC18
3B031 AA02 AB06 AC08 AC16 AC20
3B035 AA11 AB03 AB18 AC01 AC20
AC24

(54) 【発明の名称】 日焼け防止用上着

(57) 【要約】

【課題】 首回り全体から後頭部を紫外線から保護し、日焼け防止の効果の高い日焼け防止用上着を提供する。

【解決手段】 日焼け防止用上着1は、胸部から腹部を被う胴衣部2と、その胴衣部2の上部開口部3に縫い付けられた襟部4とを有している。襟部4は、市販の太陽光線遮蔽効果を有する纖維により1枚の生地から構成されている。また、襟部4は、首の前側5から頬骨部分6を沿って耳元7までを首回りに被う首被覆部8と、耳元7から耳全体を被い、さらに頭部周方向に沿って後頭部を被う後頭部被覆部9とによって構成されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 胸部から腹部を被う胴衣部と、その胴衣部の上部開口部に設けられた襟部とを有する上着において、前記襟部が首回りから後頭部までを被うことを特徴とする日焼け防止用上着。

【請求項2】 前記襟部は、首の前部にて前開き可能とされ、

その首の前部から周方向に頸骨に沿って、前記開口部から耳元の高さまでを被う首被覆部と、前記首被覆部の上側に構成され、前記耳元から該耳を被い、さらに後頭部周方向に沿って前記後頭部までを被う後頭部被覆部とにより構成されている請求項1記載の日焼け防止用上着。

【請求項3】 前記襟部は、前記後頭部を縦方向に少なくともその半分以上を被う請求項1又は2記載の日焼け防止用上着。

【請求項4】 前記襟部は、襟立て状態と襟曲げ状態とを自在に変えることができる折り畳み可能な構成とされている請求項1ないし3のいずれかに記載の日焼け防止用上着。

【請求項5】 前記襟部には、前記後頭部を被う状態を安定に保つための襟部補強手段が設けられている請求項1ないし4のいずれかに記載の日焼け防止用上着。

【請求項6】 前記襟部は、紫外線等の太陽光線の遮蔽効果を有する生地により形成されている請求項1ないし5のいずれかに記載の日焼け防止用上着。

【請求項7】 前記襟部は、前記胴衣部に着脱可能に設けられている請求項1ないし6のいずれかに記載の日焼け防止用上着。

【請求項8】 前記襟部は、その前開き部分を首の前部を横断するように被う前首部被い部を備えている請求項2ないし7のいずれかに記載の日焼け防止用上着。

【請求項9】 請求項1ないし8のいずれかに記載の日焼け防止用上着であって、その袖部分が、紫外線等の太陽光線の遮蔽効果を有する生地により形成され、その生地は前記胴衣部の生地よりも薄く、又は通気性が高く、袖口は、袖部の肘部分からほぼ一様な袖幅にて開口していることを特徴とする日焼け防止用上着。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は日焼け防止用上着に関し、特に首の後部から後頭部付近を日除けする日焼け防止用上着に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の上着の襟は、首裾を周方向に被う構成であり、首回り全体を紫外線から保護することができず、特にゴルフ、テニス、マラソン等のスポーツ競技においては、炎天下で行うことが多い首回りが日焼

けしてしまうことが多かった。

【0003】そこで、首回りにタオルやネッカチーフを巻いたりして、日焼けを軽減することが行われている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記のようにタオルやネッカチーフを巻くのは面倒であり、また、それによる日焼け防止効果も十分に得ることはできない。さらに、タオル等を巻いても、それらがズレ落ちたりしてスポーツ競技に支障を来すこともあり、外観上もセンスに欠けるといった問題があった。

【0005】本発明の課題は、首回り全体から後頭部までを紫外線等の太陽光線から保護し、十分に日焼け防止をするとともに、スポーツ競技に支障を来すこともない日焼け防止用上着を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段及び作用・効果】上記課題を解決するために、本発明の日焼け防止用上着は、胸部から腹部を被う胴衣部と、その胴衣部の上部開口部に設けられた襟部とを有し、襟部が首回りから後頭部までを被うことを特徴とする。

【0007】この構成の襟部により、首回り全体から後頭部までが紫外線等から保護され、その部分の日焼け防止を確実に行うことができる。また、特別にタオル等を巻かずとも日焼け防止を行えるので、外観上のセンスも良く、スポーツ競技に支障を来すような問題も起らない。このような構成の日焼け防止用上着は、スポーツ時のみならず、屋外での作業時や、買い物等の外出時、さらにはゴルフのキャディー用等としても日焼け防止にも適する。

【0008】上記構成の上着において、襟部を首の前部にて前開き可能とし、その襟部を、首の前部から周方向に頸骨に沿って、胴衣部の開口部から耳元の高さまでを被う首被覆部と、首被覆部の上側に構成され、耳元から耳を被い、さらに後頭部周方向に沿って後頭部までを被う後頭部被覆部とにより構成することができる。このような構成とすることで、顔面はしっかりと表向きながらも、首被覆部により首の前部から耳元までを日除けし、後頭部被覆部により後頭部付近を日除けすることができる。また、襟部の前開き部分に、前開きにより露出する前首部を被う前首部被い部を付加することができる。こうすれば、襟の前開きに対応する前首部の日焼けも防止できる。

【0009】上記構成の襟部は、以下のような種々の構成とすることができます。

【0010】(1) 後頭部を縦方向に少なくとも半分以上被う構成。これにより、より効果的に首回り全体から後頭部にかけて日除けされ、特に帽子を被った場合は、帽子の裾までを被うことができるようサイズ合わせをすれば、さらに効果的に日焼けを防止できる。

【0011】(2) 襟立て状態と襟曲げ状態とを自在に

変えることができる折り畳み可能な構成。襟立てによる日焼け防止を必要としない時は襟を折り畳み、襟曲げ状態とすれば普通の上着として機能し、また、これを襟立て状態に戻すことで、日焼け防止を行うことができるようになる。この折り畳み方式としては、例えば、襟部に折り目を入れておき、その折り目に沿って折り畳む方法等が採用できる。折り畳みは、通常の襟部の高さになる程度、あるいは襟が無くなる程度に、一段折りないし数段折りとすることができる。

【0012】(3) 後頭部を被う状態を安定に保つための襟部補強手段を襟部に設けた構成。襟部補強手段としては、後頭部を被う状態すなわち襟立て状態を安定に保つことが可能な硬さを有する生地を用いたり、襟部の縦方向に補強材を備えたりすることができる。補強材としては、例えば、縦方向への縫い止めを数カ所に設けたり、弹性変形容易な芯材、超弾性を有する芯材、あるいは形状記憶合金等の柔軟な芯材を組み込ませたりすることができ、後頭部周辺の襟立てを安定に保つことができるようになる。また、襟部補強手段を上述の芯材(ワイヤー等)により縦方向に折り曲げ可能にすれば、前述の襟部の折り曲げを容易に、しかも型くずれすることなく行うことができる。

【0013】(4) 太陽光線遮蔽効果を有する生地により形成した構成。例えば、市販の紫外線等の太陽光線の遮蔽用纖維から成る生地、あるいは太陽光線遮蔽用材を混ぜ合わした生地等を用いて襟部を形成することで、首回りから後頭部を太陽光線から一層保護することができ、ひいては日焼けの防止効果がさらに高まる。この場合、特に紫外線遮蔽効果を有する纖維を用いてもよい。

【0014】(5) 胸衣部に着脱可能に設けた構成。着脱可能に設けることで、襟部を取り外せば、日常時の上着としても併用することができるようになる。着脱方式としては、例えばマジックテープやファスナー等を用いることができ、これらは胸衣部の上部開口部付近に設けるのがよい。

【0015】なお、上記構成の本発明の日焼け防止用上着は、冬季においては寒風避けとしても機能し、特に耳から後頭部を被うと、その防寒性は一層効果的となる。

【0016】さらに、上記構成の日焼け防止用上着の袖部分を、胸衣部の生地よりも薄く又は通気性が高く、紫外線等の太陽光線の遮蔽効果を有する生地により形成し、その袖口を、袖部の肘部分からほぼ一様な袖幅にて開口することができる。このような構成の袖部分の採用により腕も日焼け防止され、また、生地を薄くし又は纖維を粗くし、袖口を筒状に開口したため、通気性が良く夏季には暑さ対策にもなる。

【0017】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図面に示す実施例に基づき説明する。図1は、本発明の一実施例たる日焼け防止用上着1を着用した例を示す図であ

る。その日焼け防止用上着1は、胸部から腹部を被う上着本体部としての胸衣部2と、その胸衣部2の上部開口部3に縫い付けられた襟部4とを有している。襟部4は、市販の太陽光線遮蔽効果を有する生地から構成されている。また、襟部4は、首の前側5から頸骨部分6を沿い、耳までの高さを首回りに被う首被覆部8と、首被覆部8の上側に構成され、耳元7から耳全体を被い、さらに後頭部周方向に沿って後頭部を被う後頭部被覆部9とによって構成されている。本実施例では、襟部4は首の前側5にて前開きとなっているが、例えばボタンあるいはファスナー等の係合部材を設けて前閉じとしてもよい。また、胸衣部2と襟部4とは、開口部3にて縫合により縫い付けられているが、一枚の生地から胸衣部2と襟部4とを図1のよう型どった一体形成のもの、つまり胸衣部2と一緒に連続する襟部4でもよい。

【0018】後頭部被覆部9は耳元7において、首被覆部8の頸骨部分6と繋がっており、その繋がり部分10は「く」の字状、L字状又は所定の曲率の曲線状とされている。また、後頭部被覆部9は、側頭部から後頭部にかけて頭部上方側に向て盛り上がっており、後頭部全体を被っている。このような日焼け防止用上着1は、首回り全体から後頭部にかけて太陽光線(紫外線等)から保護し、日焼けを防止する。さらに後頭部被覆部9の耳部分の端部11、首被覆部8の頸骨部分6の端部12は頂部を有しており、外観上見栄えのよい構成となっている。なお、繋がり部分10は、頸骨の輪郭に合ったアール面(曲線)状に形成してもよく、端部11、12もアール面(曲線)状にしてもよい。

【0019】なお、図1に2点鎖線で示すように後頭部被覆部9の上辺部から首被覆部8の前端部まで、滑らかに連続する外縁(8'+9')としてもよい。この場合の首及び後頭部の両被覆部8'及び9'の境界は明瞭に表れるものではないが、首に相当する部分、及び後頭部に相当する部分がそれぞれ首被覆部8'及び後頭部被覆部9'となる。

【0020】図2に示すように、帽子20を着用し、襟部4の頭部上側端部を帽子20の裾まで被せるようにサイズを合わせれば、より効果的に後頭部を紫外線から保護することができる。

【0021】一方、襟部4には、ワイシャツにみられるような折り目を入れて折り畳み可能とすることができる。図3に示す一例では、2カ所の折り目30、31により2つ折りが可能となっている。折り目30は、端部12、12を周方向に跨いで形成され、折り目31は、折り目30の上側に端部11、11を周方向に跨いで形成されている。この折り目30、31は、布地に強制的に折り目加工を施しておくこと等により形成することができる。

【0022】折り目30、31による折り畳みは、以下のように行うことができる。まず、図3(b)のよう

に、胴衣部2の開口部3から襟部4の全体を折り曲げて行うことができる。これは、日焼け防止を行わない時に、襟曲げ状態で襟が無くなるため、首回りが開放的で清涼感がある。一方、図3(c)のように、折り目30のみを折り曲げたり、図3(d)のように折り目30, 31の両方を折り曲げたりすることができる。この場合、日焼け防止を行わない時でも襟が残るため、襟を必要とするときに有効である。とくに図3(d)のように折り目31で、後頭部被覆部9の上側部分32を中間部分33の内側に折り返し、下側部分34を襟立て状態にすると、従来の襟付きシャツと見た目が変わらないため、さらに有効である。

【0023】また、襟部4には、後頭部を被う状態を安定に保つための襟部補強手段を設けることができる。襟部4の襟立て状態を保てる程度の硬さを有する生地により、襟部4を安定に襟立てすることも可能であるが、図4のような手段を用いると効率よい。図4は、襟部4の後方部4aを内側(すなわち首に面する側)から見た正面図である。図4(a)では、襟部4の後方部4aに、襟部補強手段としての複数(例えば3カ所)の縫合部40が、縦方向の縫い止めとして形成されている。この縫合部40は、襟立てを保持・矯正するためのものであり、縫合の繊維は、襟部4と同素材の繊維或いはそれよりも硬い繊維であることが望ましい。また、例えば、襟部4と同素材の生地(あるいはこれより硬い生地、もしくはプラスチックフィルム等の合成樹脂シート)を縫長に、後方部4aの内側(首に面する側)に当てて当て布(又は当て芯)として縫い付ける(又は生地に同着等により一体化する)と、さらに補強効果が向上する。

【0024】図4(b)では、襟部4の後方部4aの内側(首に面する側)に、襟部補強手段としてワイヤー45が3カ所設けられている。これは、後方部4aの内側に、縦方向に一端を開口したポケット46を形成し、そのポケット46内にワイヤー45を挿入して設けられている。ワイヤー45は、市販の形状記憶合金、弾性変形容易な線材又は帯材、超弾性の線材又は帯材、もしくは合成樹脂等を用いることができ、これを折り曲げ可能なものとすれば、折り目30, 31にて折り畳みを行うことができる。ここで、超弾性を有する芯材であれば、折り曲げを繰り返しても金属疲労等により折損が生じにくい。また、形状記憶合金を芯材に用いる場合、例えば夏の炎天下に襟部4が立つように、例えば25°C以上で起立する形状を記憶させておけば、日本の冬は勿論、春、秋には襟部4を折れた状態に維持し、一定以上に気温が上昇したとき襟部4が立ち上がるようになることもできる。

【0025】さらに、図5に示すように、襟部4を着脱手段により取り外し可能にすることができる。図5の着脱手段は、開口部3よりも少し下側に形成されたマジックテープ50により行われる。なお、マジックテープ50

0は、開口部3に直接設けてよい。このように、着脱可能とすることで、襟部4を取り外せば室内用の普段着としても使用できる。

【0026】また、図6に示すように、首被覆部8の前開き部分(前側5)を被う前首部被い部21を付加することができる。この被い部21は、図7(a)に示すように、前開き部分5の首被覆部8の一方の端部に基部を縫いつけ(縫い目27)、そこから延びる自由端部を首被覆部8の他の端部にボタン、ホック、圧着ファスナー等の着脱可能な止手段(25)により止めるようにしたものである。これにより、前開き部分5の前首部も紫外線等から保護される。なお、図7(b)のように前首部被い部21を首被覆部8と一体構成とすること、同図(C)のように首被覆部8の外側に前首部被い部21を設けること、同図(d)のように前首部被い部21を着脱可能な止手段25により首被覆部8に対して取り付け、取り外し可能とすることもできる。

【0027】一方、図8は日焼け防止用上着の一変形例を示している。これは、日焼け防止用上着100の袖部分60の生地を、胴衣部2の生地よりも薄くし(メッシュ状の生地)、太陽光線遮蔽(例えば紫外線遮断)効果を有する繊維により形成し、その袖口61を筒状に開口し、手首との間に隙間ができるようにした。この日焼け防止用上着100は、腕部分も日焼けを防止し、また、袖部分60の生地を薄くし、袖口61を筒状に開口し、手首との間に隙間を設けたため、通気性が良くなっている。なお、襟部4も袖部分60と同様の通気性のよい薄い生地を用いることが可能である。

【0028】なお、以上説明した襟部(又は胴衣部)を構成する素材については特に制限はなく、常用の衣料用繊維、例えば綿、麻、絹、毛、セルロース等の天然繊維や、ポリエステル、ナイロン、アクリル等の合成繊維、ベンベルグ、レーヨンなどの再生繊維などが挙げられる他、光線遮蔽繊維も挙げることができ、これら素材は単独で用いてもよいし、また2種以上を組み合わせて用いてもよい。

【0029】また、通気性を高めるために、襟部及び/又は胴衣部を開孔率1~50%のニットもしくは織物のメッシュ生地、また、一層の通気性、清涼性を付与するため、開孔率が約15~50%のニットもしくは織物のメッシュ生地からなる通気部を配することができる。

【0030】さらに襟部及び/又は胴衣部に太陽光遮蔽機能を有する素材(生地)を用いる場合、例えばそのニットや織物のメッシュ生地を構成する糸として、太陽光反射性セラミックス微粒子を含有した糸を使用することも可能である。すなわち、クーリング性能を向上させるために、例えば酸化チタン、チタン酸カリウム、アルミニウム、ジルコニアやその他の太陽光反射性に富むセラミックス微粒子を練り込んだポリエステルフィラメント糸(以下、クーリング糸と略称する)を使用することによ

り、ポリエステル自体が有する太陽光反射性に加えて、糸中に分散したセラミックス微粒子自体も太陽光反射性を有するため、太陽光反射性が一段と増加し、これらクリーリング糸を太陽光遮蔽部や通気部に配するニットや織物のメッシュ生地表面に配することにより、太陽光遮蔽性と太陽光反射性の相乗効果が生じ、衣服内温度を低く保つことができるとともに、紫外線を遮断し、日焼けを防ぐ効果がより顕著に生じるものである。なお、太陽光反射性セラミックス微粒子の割合は、糸の重量全体に対して、約3～10wt%の範囲で配合することが可能であるが、約5～6wt%の配合が、太陽光遮蔽性と太陽光反射性を満足する配合である。

【0031】また、その太陽光遮蔽において、特に紫外線遮蔽について、紫外線吸収剤として使用され含有させる材料は、酸化チタン、硫酸バリウムと酸化チタンの混合物、マンガン化合物で被覆した平均粒子径0.1μm以下の無機微粒子、モノカルボン酸またはフェノールの第2銅塩（イギリス特許第1,033,999号）、可溶性のコバルト化合物（イギリス特許第1,121,221号）、リンの酸素酸のマンガン塩またはコバルト塩（東ドイツ特許第102,714号）、紫外線吸収剤（特公昭43-23328号）などが好ましく挙げられるが、紫外線吸収効果のある材料であれば他のいかなる材料をも使用することができる。

＊【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例たる日焼け防止用上着の着用例を示す図。

【図2】図1の日焼け防止用上着と帽子とを併用した着用例を示す図。

【図3】折り畳み可能な日焼け防止用上着の折り畳み作用を示す作用説明図。

【図4】襟部補強手段を有する日焼け防止用上着の背面図。

【図5】着脱手段を有する日焼け防止用上着の背面図。

【図6】前首部被い部の一例を示す斜視図。

【図7】前首部被い部の幾つかの変形例を示す平面説明図。

【図8】日焼け防止用上着の他の実施例を示す図。

【符号の説明】

1 日焼け防止用上着

2 胸衣部

3 開口部

4 襟部

8 首被覆部

9 後頭部被覆部

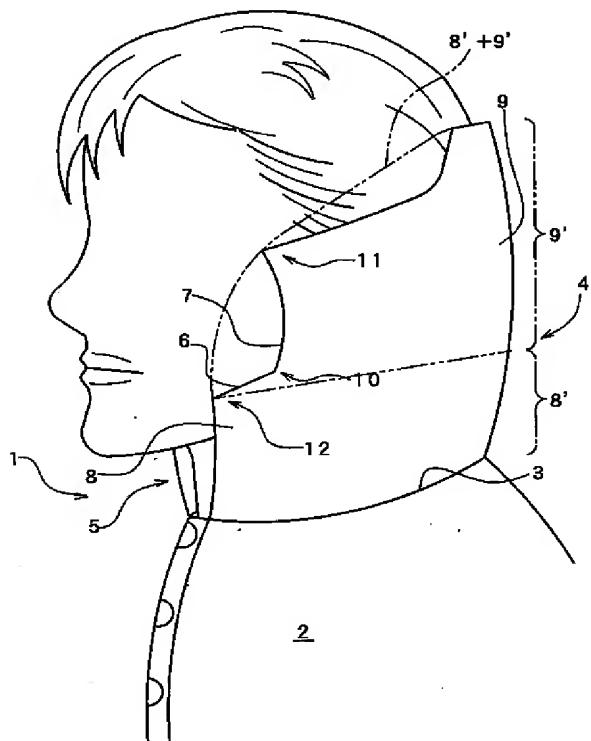
21 前首部被い部

40, 45 襟部補強手段

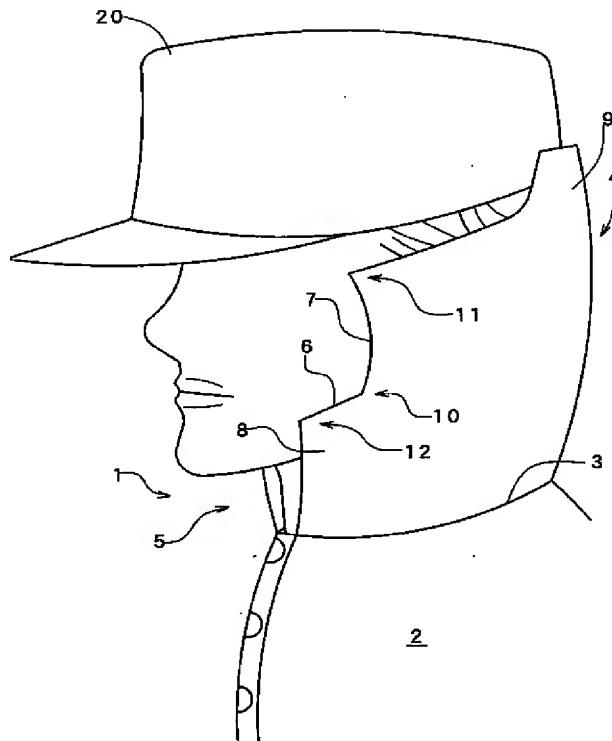
50 着脱手段

＊

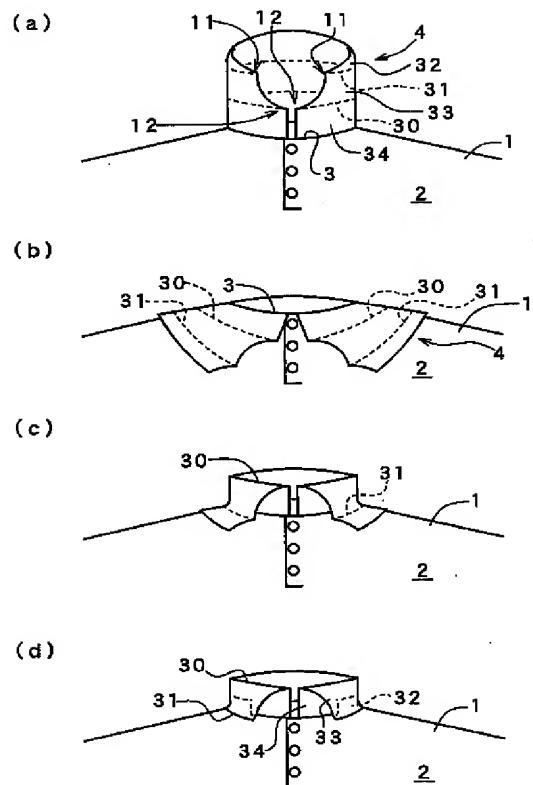
【図1】



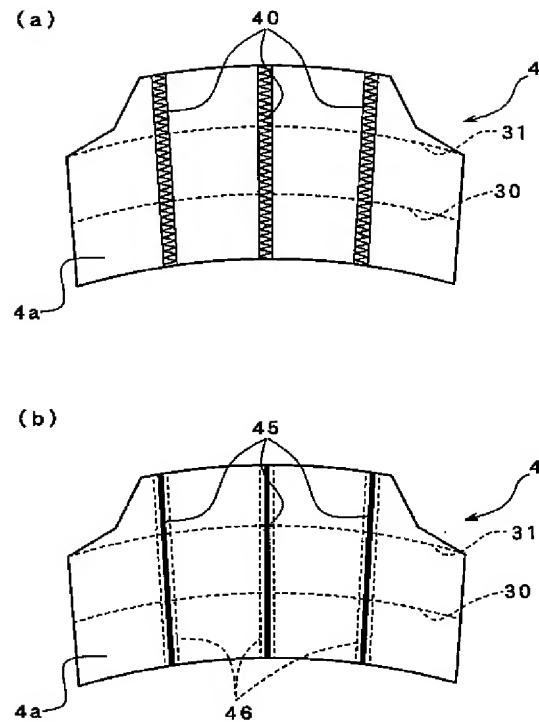
【図2】



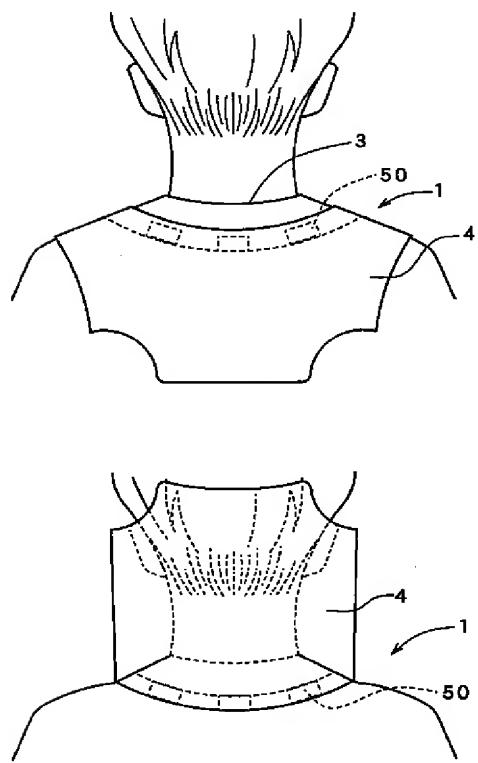
【図3】



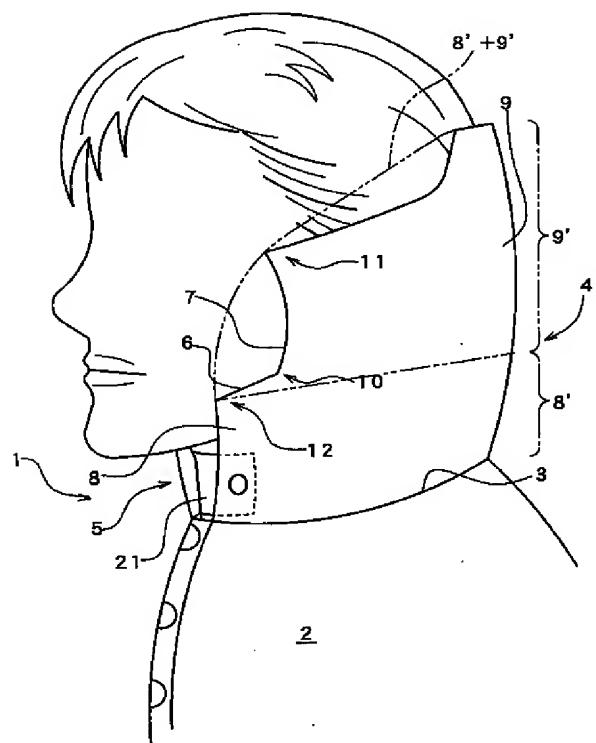
【図4】



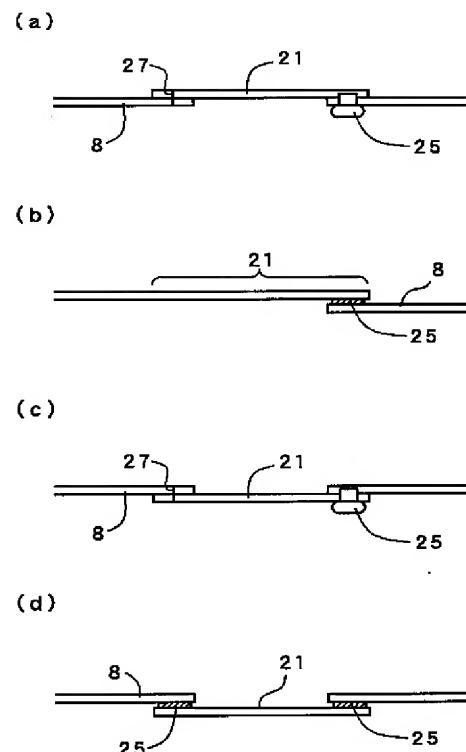
【図5】



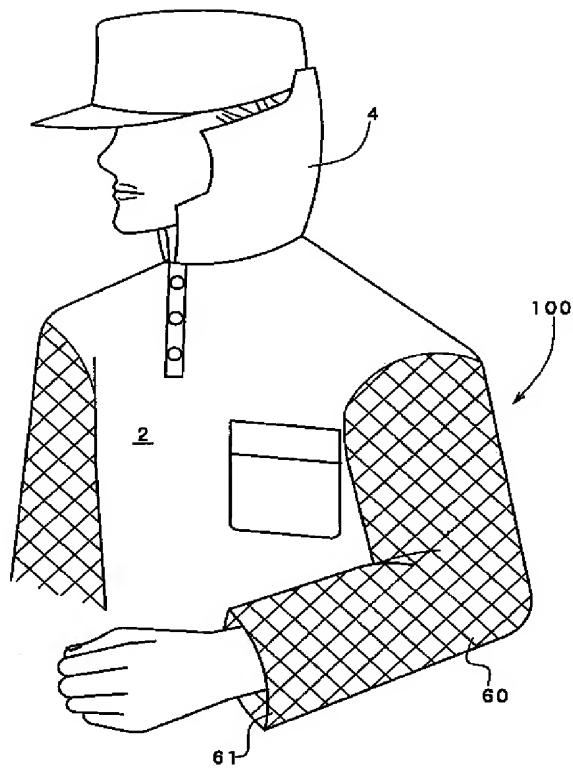
【図6】



【図7】



【図8】



【手続補正書】

【提出日】平成12年1月17日(2000.1.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 胸部から腹部を被う胴衣部と、その胴衣部の上部開口部に設けられた襟部とを有する上着において、前記襟部が首回りから後頭部までを被うとともに、前記襟部は、首の前部にて前開き可能とされ、その首の前部から周方向に頬骨に沿って、前記開口部から耳元の高さまでを被う首被覆部と、

前記首被覆部の上側に構成され、前記耳元から該耳を被い、さらに後頭部周方向に沿って前記後頭部までを被う後頭部被覆部とにより構成され、

さらに、前記首被覆部と前記後頭部被覆部との間に周方向に第1の折り目が形成され、また前記後頭部被覆部の中間に周方向に第2の折り目が形成され、これら第1及び第2の折り目によって、前記襟部は前記首被覆部である下側部分と前記後頭部被覆部が2分された中間部分と上側部分との都合3領域に区分され、かつ前記上側部分が前記中間部分より幅が狭くなるように形成されるとともに、前記第1及び第2の折り目で折り畳み可能とされ、

さらに当該襟部には、前記後頭部を被う状態を安定に保つための襟部補強手段が設けられていることを特徴とする日焼け防止用上着。

【請求項2】 胸部から腹部を被う胴衣部と、その胴衣部の上部開口部に設けられた襟部とを有する上着において、前記襟部が首回りから後頭部までを被うとともに、前記襟部は、首の前部にて前開き可能とされ、その首の前部から周方向に頬骨に沿って、前記開口部から耳元の高さまでを被う首被覆部と、前記首被覆部の上側に構成され、前記耳元から該耳を被い、さらに後頭部周方向に沿って前記後頭部までを被う後頭部被覆部とにより構成され、かつ、前記襟部は、その前開き部分を首の前部を横断するように被う前首部被い部を備えていることを特徴とする日焼け防止用上着。

【請求項3】 胸部から腹部を被う胴衣部と、その胴衣部の上部開口部に設けられた襟部とを有する上着において、前記襟部が首回りから後頭部までを被うとともに、袖部が紫外線等の太陽光線の遮蔽効果を有する生地により形成され、その生地は前記胴衣部の生地よりも薄く、又は通気性が高く、袖口は、袖部の肘部分からほぼ一様な袖幅にて開口していることを特徴とする日焼け防止用上着。

【請求項4】 前記襟部は、

首の前部にて前開き可能とされ、

その首の前部から周方向に頬骨に沿って、前記開口部から耳元の高さまでを被う首被覆部と、

前記首被覆部の上側に構成され、前記耳元から該耳を被い、さらに後頭部周方向に沿って前記後頭部までを被う後頭部被覆部とにより構成されている請求項3記載の日焼け防止用上着。

【請求項5】 前記襟部は、前記後頭部を縦方向に少なくともその半分以上を被う請求項1ないし4のいずれかに記載の日焼け防止用上着。

【請求項6】 前記襟部は、襟立て状態と襟曲げ状態とを自在に変えることができる折り畳み可能な構成とされている請求項1ないし5のいずれかに記載の日焼け防止用上着。

【請求項7】 前記襟部には、前記後頭部を被う状態を安定に保つための襟部補強手段が設けられている請求項1ないし6のいずれかに記載の日焼け防止用上着。

【請求項8】 前記襟部は、紫外線等の太陽光線の遮蔽効果を有する生地により形成されている請求項1ないし7のいずれかに記載の日焼け防止用上着。

【請求項9】 前記襟部は、前記胴衣部に着脱可能に設けられている請求項1ないし8のいずれかに記載の日焼け防止用上着。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正内容】

【0006】

【課題を解決するための手段及び作用・効果】上記課題を解決するために、本発明の日焼け防止用上着は、胸部から腹部を被う胴衣部と、その胴衣部の上部開口部に設けられた襟部とを有し、襟部が首回りから後頭部までを被うことを前提とする。そして、前記襟部は、首の前部にて前開き可能とされ、その首の前部から周方向に頬骨に沿って、前記開口部から耳元の高さまでを被う首被覆部と、前記首被覆部の上側に構成され、前記耳元から該耳を被い、さらに後頭部周方向に沿って前記後頭部までを被う後頭部被覆部とにより構成され、さらに、前記首被覆部と前記後頭部被覆部との間に周方向に第1の折り目(例えば図3、図4の符号30)が形成され、また前記後頭部被覆部の中間に周方向に第2の折り目(例えば図3、4の符号31)が形成され、これら第1及び第2の折り目によって、前記襟部は前記首被覆部である下側部分と前記後頭部被覆部が2分された中間部分と上側部分との都合3領域に区分され、かつ前記上側部分が前記中間部分より幅が狭くなるように形成されるとともに、前記第1及び第2の折り目で折り畳み可能とされ、さらに当該襟部には、前記後頭部を被う状態を安定に保つ

めの襟部補強手段が設けられていることを特徴とする。
また、前記襟部は、首の前部にて前開き可能とされ、その首の前部から周方向に頸骨に沿って、前記開口部から耳元の高さまでを被う首被覆部と、前記首被覆部の上側に構成され、前記耳元から該耳を被い、さらに後頭部周方向に沿って前記後頭部までを被う後頭部被覆部により構成され、かつ、前記襟部は、その前開き部分を首の＊

＊前部を横断するように被う前首部被い部を備えていることを特徴とする。さらに、前記袖部が紫外線等の太陽光線の遮蔽効果を有する生地により形成され、その生地は前記胴衣部の生地よりも薄く、又は通気性が高く、袖口は、袖部の肘部分からほぼ一様な袖幅にて開口していることを特徴とする。

【手続補正書】

【提出日】平成12年4月10日(2000.4.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 胸部から腹部を被う胴衣部と、その胴衣部の上部開口部に設けられた襟部とを有する上着において、前記襟部が首回りから後頭部までを被うとともに、前記襟部は、首の前部にて前開き可能とされ、その首の前部から周方向に頸骨に沿って、前記開口部から耳元の高さまでを被う首被覆部と、前記首被覆部の上側に構成され、前記耳元から該耳を被い、さらに後頭部周方向に沿って前記後頭部までを被う後頭部被覆部により構成され、さらに、前記首被覆部と前記後頭部被覆部との間に周方向に第1の折り目が形成され、また前記後頭部被覆部の中間に周方向に第2の折り目が形成され、これら第1及び第2の折り目によって、前記襟部は前記首被覆部である下側部分と前記後頭部被覆部が2分された中間部分と上側部分との都合3領域に区分され、かつ前記上側部分が前記中間部分より幅が狭くなるように形成されるとと

もに、前記第1及び第2の折り目で折り畳み可能とされ、

さらに当該襟部には、前記後頭部を被う状態を安定に保つための襟部補強手段が設けられていることを特徴とする日焼け防止用上着。

【請求項2】 請求項1において、前記襟部は、前記前開き部分を首の前部を横断するように被う前首部被い部を備えていることを特徴とする日焼け防止用上着。

【請求項3】 請求項1又は2において、前記日焼け防止用上着は袖部を備え、その袖部が紫外線等の太陽光線の遮蔽効果を有する生地により形成され、その生地は前記胴衣部の生地よりも薄く、又は通気性が高く、袖口は、袖部の肘部分からほぼ一様な袖幅にて開口していることを特徴とする日焼け防止用上着。

【請求項4】 前記襟部は、前記後頭部を縦方向に少なくともその半分以上を被う請求項1ないし3のいずれかに記載の日焼け防止用上着。

【請求項5】 前記襟部は、紫外線等の太陽光線の遮蔽効果を有する生地により形成されている請求項1ないし4のいずれかに記載の日焼け防止用上着。

【請求項6】 前記襟部は、前記胴衣部に着脱可能に設けられている請求項1ないし5のいずれかに記載の日焼け防止用上着。